

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



8月号 発行 平成28年8月25日

農林業関係

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました！

7月29日（金）、いわき市小名浜のアクアマリンふくしま館内において、「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました。

県内外からの来館者に対して、県産農林水産物の美味しさや安全性をPRするとともに、県産農林水産物の購入状況や購入意欲に関するアンケート調査を実施し、アンケート調査に協力した方を対象に、いわき市産のミニトマト及び干し椎茸を150セット配布しました。

他県からの来館者も多くいましたが、「福島県産のものは普段から買っている」、「福島県産だからと言って、特に気にしていない」などの声も聞かれました。

アンケート回答者の半数以上が他県からの来館者でしたが、県産農林水産物を「購入したくない」等のネガティブな回答はほとんどありませんでした。 (企画部)



(キャンペーンの様子)



(おいしい県産農産物を食べて応援しよう！)

天のつぶ栽培講習会が開催されました！



(講習会の様子)

7月20日（水）、天のつぶ栽培講習会がJA福島さくらいわき地区本部常磐支店において、開催されました。講習会には生産者16名と営農指導関係者5名が参加し、始めに、いわき農林事務所の作物担当者より、天のつぶのカメムシ防除対策、穂肥、適期刈り取りまでの栽培技術について講義の後、天のつぶの栽培ほ場において、生育状況の確認・観察が行われました。



(穂肥のための幼穂測定)

天のつぶの収量向上のための追肥時期の判断には、幼穂長や葉色、草丈の測定がポイントになることなどの説明が作物担当者からありました。今年から本格的に米づくりをする定年帰農者や新たに米づくりを担う女性らは、自分たちのほ場でもやってみたいと意欲的で、今年も収量や品質の高い天のつぶの生産が期待されます。

(農業振興普及部)

県産農林水産物安全・安心実感ツアー 「いわきで学ぼう！体験盛りだくさんツアー」が開催されました！

7月26日(火)、ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動推進本部の主催により、県内の小学生とその保護者(20組40名)を対象に県産農林水産物の安全性について理解を深めてもらうため、農林漁業者等の安全確保に向けた取組や放射性物質検査の手順等についての見学、地元農産物の収穫体験を行うバスツアーが開催されました。

ツアー当日は、(農事組合法人)大野水耕生産組合においてアスパラガスの収穫体験、(株)JRとまランドいわきファームにおいてトマトの摘み取り体験、(株)ワンダーファームでの昼食をはさんで、JA福島さくら第一営農経済センターにおいて放射性物質検査の見学、(株)夕月において竹ちくわ作り体験を行いました。

参加者からは、「アスパラガスの収穫体験は初めてで楽しかった」、「かまぼこの語源の由来は、『ガマの穂』から来ていることを初めて知った」等の声が聞かれました。また、「放射性物質検査によって、ちゃんと検査されていることがわかった」等の声も聞かれ、生産者との触れ合いを通じて、安全の取組について現地を見て、聞いて、体験したことで県産農林水産物の安全性について理解が進んだようでした。

(企画部)



(アスパラガス収穫体験の様子)



(集合写真)

JA福島さくら好間支店・新鮮やさい館好間店竣工落成式が執り行われました！



(テープカットの様子)

7月21日(木)、いわき市好間町において、JA福島さくら好間支店・新鮮やさい館好間店の竣工落成式が執り行われました。

竣工落成式では、熊野神社の宮司による神事後、JA福島さくらの結城代表理事組合長などの関係者によるテープカットが行われ、これにより好間支店の本格的な営業がスタートしました。

好間支店は7月19日(火)から営業を開始していますが、新鮮やさい館には、オープン前から300人を超える多くのお客様が行列をつくり、

暑いなか警備員が対応に奔走するほどの大盛況で、店内には、安全・安心の食にこだわった地元の新鮮野菜や果物が所狭しと並べられ、明るく元気なスタッフのもと活気に満ちたオープン初日となりました。

好間支店に併設されている市内4カ所目の新鮮やさい館となる好間店は、テープカットと同時にオープンとなりました。(企画部)

「サンシャインいわき梨」出荷開始式が執り行われました！



(光センサーによる高品質選別)

8月10日(水)、JA福島さくらいわき地区梨選果場の操業開始式が執り行われ、県内で最も早く梨の出荷が始まりました。いわき梨は「サンシャイン」ブランドのとおり、太陽の光を充分に受け、甘味良好でみずみずしい果実が特徴です。

式では、梨選果場の松本明能運営委員長から「今年は天候にも恵まれ良い果実に仕上がっている。消費者の期待に応えられるよう、安全で品質の良い梨を生産したい。」とあいさつがありました。

「幸水」は8月いっぱいまでですが、9月からは「豊水」、9月下旬は本県オリジナル品種「涼豊(りょうほう)」、10月末には「新高(にいたか)」が出荷されますので、いわきの秋の味覚をお楽しみください。(農業振興普及部)

「新舞子ふれあいの森」下刈り作業が実施されました！



(下刈り作業の様子)

などを手鎌などで丁寧に刈っていました。

いわき青年林業会議所は、クロマツが生育し立派な海岸林が復活することを目指し、これからも活動を続けていくこととしています。

(森林林業部)

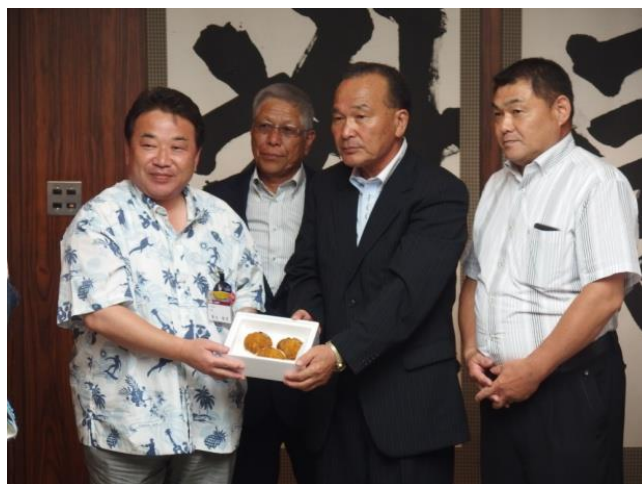
7月23日(土)、「新舞子ふれあいの森」にある平下神谷地内のクロマツ植林地において、下刈りボランティア作業が実施されました。

今回で24回目となるこの活動は、いわき青年林業会議所が海岸林整備のため毎年実施しているもので、素材生産業者やNPO法人いわきの森に親しむ会、磐城森林管理署など15名が参加しました。

参加者は、植栽されたクロマツが昨年より大きくなっているのを感じながら、繁茂するススキ

水産業関係

いわき市漁業協同組合の新役員が市長を表敬訪問しました！



(いわき市長といわき市漁協新役員)

りましたが、イベント用も含めて貝焼き814個を出荷し、価格は1個あたり約3,300円と漁期を通して高値で取引されました。貝焼きに対する高い需要の表れであり、来年の操業拡大が期待されます。

(水産事務所)

7月27日(水)、新たにいわき市漁業協同組合役員となった江川組合長、鈴木、馬目副組合長がいわき市長を表敬訪問するとともに、いわき産水産物のPRや、後継者対策などについて意見交換をしました。

また、今回はPRもかねて、いわき名産のウニの貝焼きを市長に贈呈したところ、「大きい!やはり外国産とは違う!」と、賞賛の声をいただきました。

今年のウニ試験操業は7月いっぱいまで終漁となり

石川町・久之浜町 海と山漁業体験交流会が開催されました！

7月23日(土)、久之浜漁港で石川町・久之浜町 海と山漁業体験交流会が開催されました。

久之浜・大久地区と石川町は平成21年から行事等を通じて交流を続けており、今回の交流会は、山



(開会式の様子 (江川組合長挨拶))

間地域に住む石川町の子供達に漁業の魅力を伝えるため開催されたものです。

約60名の小学生が参加し、船上で漁業者から津波の体験談や復興の状況を教えていただきました。

帰港後、女性部が試験操業で漁獲されたメヒカリの唐揚げを提供し、いわき産の魚介類の美味しさと安全性をPRしました。

また、前日に仕掛けた刺網を漁港に持ち帰り、カ二等漁獲物の網外しを行いました。

子供達は生きている魚介類に大喜びでした。

(水産事務所)

その他

いわき農林事務所管内建設工事安全推進協議会が開催されました！



(協議会の様子)

8月2日(火)、いわき農林事務所管内建設工事安全推進協議会が開催されました。

この協議会は、管内の建設会社等31社といわき農林事務所構成し、労働災害の未然防止と労働者の安全衛生及び作業環境の向上を図るために設立された協議会で、今年度は約30名が出席しました。

冒頭で会長の森口いわき農林事務所長が「労働災害の発生原因は、慣れによる基本的な安全確認を怠ったことがほとんどで、労働災害の防止は、

地道に安全対策を考え、実行することである」と挨拶しました。

総会では、今年度の活動内容として、工事箇所の安全パトロールと検討会、現場代理人等を対象とした安全衛生教育研修会等の実施を全会一致で可決しました。

総会終了後、「建設工事における労働災害防止の徹底について」と題して、いわき労働基準監督署後藤安全衛生課長による講話をいただき、労働災害の発生状況や発生防止強化の取組について説明を受けました。

参加者は、復興事業などで受注件数が多い中、労働災害の未然防止と労働環境改善が工事の早期完成につながることを再認識していました。

(総務部)

お知らせ

鳥獣被害対策について

いわき市では鳥獣被害防止計画を作成し、鳥獣（特にイノシシ）の被害対策を重点的に進めています。市内では昨年度2,400頭余りのイノシシが捕獲されました。鳥獣被害対策は「個体数管理、生息環境管理、被害防除対策」の三本柱で進める必要があります。地域全体でイノシシの侵入を未然に防ぎ、被害を減らす対策の第一歩として「集落環境診断」を行いましょ。

「集落環境診断」ではまず、目撃情報や足跡、糞などの痕跡から進入経路や行動範囲を明らかにするため、参加者全員で集落の状況を把握します。

次に、状況把握で得られた情報をもとに航空写真や地形図に目撃情報や被害地点を記入し、侵入する原因やそれぞれの対策を検討します。

実際の現地活動としては、農地と接する山林の下刈りや耕作放棄地の除草やエサとなる放任果樹や野菜残さを処分し、最後に電気柵を張り、集落ぐるみで守りを固めましょ。あくまでも「捕獲」は最終手段と考えてください。
(農業振興普及部)

野生きのこの出荷・摂取制限について

原発事故後、県では、環境放射線モニタリング検査を実施しており、平成28年8月12日現在、いわき市を含む県内55市町村において、野生きのこの出荷制限措置が継続しています。

これから、野生きのこが多く発生する時期を迎えますが、出荷制限措置となっている市町村においては、野生きのこの販売目的での採取、出荷はもとより、直売所等での販売は行わないでください。自主検査により「基準値(100Bq/kg)」以下であっても、制限が解除されるまでは、出荷・販売はできません。野生きのこを使用した加工品も同様です。

特に、いわき市産の野生きのこは、出荷制限措置のほか、摂取制限措置になっていることから、食べることも控えてください。
(森林林業部)

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果について

□農林畜産物の検査結果

福島県が行った、いわき地方の7月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果(表1)をお知らせします。

検査した12品目22検体のうち、11品目21検体において、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は(表2)のとおりです。

なお、菌床きくらげ(施設)については、1検体に3.8Bq/kgの放射性セシウムが検出されました。

また、7月末現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、(表3)のとおりです。

(表1) 農林畜産物の検査結果 (7月末現在)

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			計
11品目	1品目(※)			12品目
21検体	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超で検出された検体	22検体
	0検体	1検体	0検体	

※: 菌床きくらげ(施設)

(表2) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

菌床しいたけ(施設) 5、菌床なめこ(施設) 2、六条大麦1、ツルムラサキ1、小麦1、サヤインゲン(施設) 1、サヤインゲン1、ピーマン1、バレイショ1、牛肉3、原乳4
--

(表3) 出荷制限および出荷自粛品目 (7月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	野菜・根菜・芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る) わらび、こしあぶら
	きのこ畜産物	原木なめこ(露地)、野生きのこ
出荷自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

(企画部)

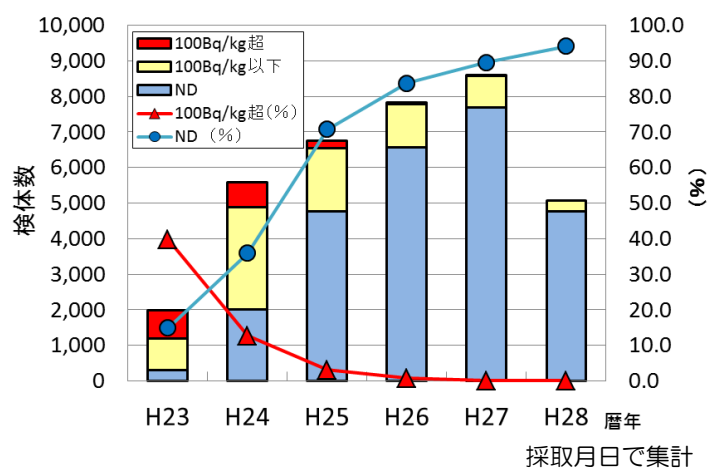
□海産魚介類の検査結果

- 福島県沖で採取された海産魚介類の放射性セシウム濃度は、時間の経過とともに着実に低下しています。

平成28年7月に780検体を検査し、放射性セシウムとしての基準値100Bq/kgを超えたものはありません。海産魚介類では平成27年4月以降、基準値を超えたものはありません。平成27年7月以降、モニタリング検査で放射性セシウムの不検出割合が9割を超え、平成28年には不検出割合が94%となっています。

年		100Bq/kg超	100Bq/kg以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合(%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合(%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合(%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合(%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	896	7,677	8,577
	割合(%)	0.05	10.4	89.5	100.0
H28	検体数	0	300	4,775	5,075
	割合(%)	0.00	5.9	94.1	100.0

H28.7.31現在



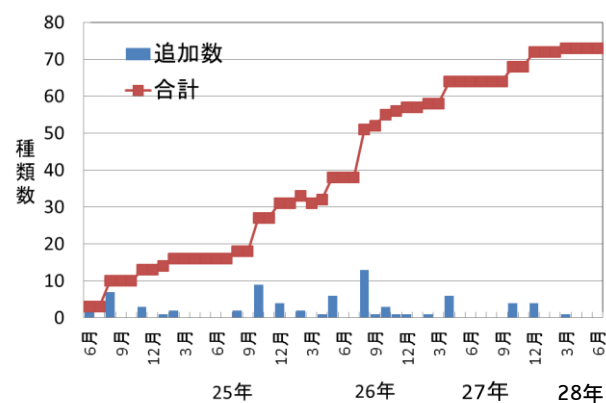
平成23年以降のモニタリング検体数と放射性セシウム検出の割合

□試験操業の状況

○ 現在は安全性が確認されている魚介類73種類について試験操業が行われています。

なお、平成28年7月15日に国によるホシガレイ・マゴチ・マツカワ・サブロウ・ナガツカの出荷制限指示が解除されました。（出荷制限魚種は21種）

試験操業種の対象種の推移



（水産事務所）

いわき農林事務所緊急連絡体制の伝達訓練の実施について

8月6日（土）、緊急時連絡体制の伝達訓練を実施しました。

これは、休日等勤務時間外の災害等緊急時において、全所員に連絡事項を伝達する連絡網が正確かつ迅速に機能することを確認するため、事前通告なしで実施したものです。

8時30分に伝達を開始し、午前中に各部から総務部に伝達完了の報告がされました。

今回の訓練の結果、携帯電話が手元になかった等で連絡が遅れた職員もいたことから、自宅等の電話番号も連絡網に掲載するようにしました。

今後も、連絡事項が正確で、速やかに伝達できるよう体制を改善し、更に訓練を実施していきたいと考えています。

（総務部）

いわきの情報をお知らせします！

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された6次化商品をご紹介します！



今回は“ふくしま地域産業6次化新商品カタログ”（平成28年3月版）に掲載されている商品の中からアグリ物産（株）の「いわきゴールド椎茸そうめん」をご紹介します。

「いわきゴールド椎茸そうめん」は、みずみずしく、なめらかな食感が特徴のいわきゴールド椎茸4個分の粉末を練り込んだ逸品です。

アグリ物産（株）の松本専務は「福島県産のきのこは震災により大きな打撃を受けたが、椎茸の

新たな発見につながる6次化商品であれば市場に受け入れられる余地があるのではないか。」と考え、県内の製造業者と協力して商品開発に取り組まれたそうです。

椎茸の粉末は、麺と馴染ませるのが難しく、全国でも珍しい一品となっております。

また、そうめんといえば夏のイメージが強いですが、冬は軽く湯通ししてそのまま鍋に入れても椎茸の旨味が立ち美味しくいただけます。「いわきゴールド椎茸そうめん」は、県内の(株)ヨークベニマル、セブングループ、イオングループでお買い求めいただけます。まだまだ暑い夏が続きます。この機会に是非ご賞味ください。

食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日(9月は8日(木))に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。

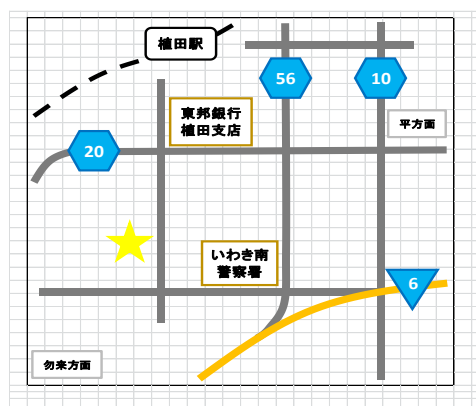
なお、店舗の都合により内容は変更される場合がありますのでご了承ください。

○ 北の屋そばや(植田町)

地産地消メニュー：(冷)天ぷらそば・野菜の小天丼

説明：提供する料理にはいわきの野菜(ピーマン、カボチャ、シシトウ、ミョウガ、ナス等)をできるだけ多く使用しています。

住所：植田町本町1-10-1
電話番号：0246-62-4752



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース